

## 第5回松本市アルプス公園自然活用実行会議

令和4年12月26日（月）13:30～16:30

大手公民館 大会議室

### 【前回会議についての質疑応答】

（発言者：土田） 何か質問ありますでしょうか。前回までのいろいろ議論した結果の確認ということでございます。ありませんか。

先ほどおっしゃられていましたけども、各ゾーン等について我々にメールでいただいた資料ございますけど、これについては先ほど説明の中でご意見をいただくということをおっしゃっていましたが、そういう機会はあるわけですか。

（回答者：事務局） はい、そうです。今意見が出ればそれは協議いただきたいと思えますし、個々にメールいただければ。早い時間、これからまとめますので、早いうちにいただきたいと思っています。

（発言者：土田） ここで特に会議の場で検討するということじゃなくて各ご意見がありましたら事務局にお知らせいただいて、またそれらの意見を同時に取りまとめるか未定ですけども。十分によく読んでいただいてご意見を寄せていただくようお願いいたします。その他の部分につきましても、同じようにお願いいたします。

それでは、今回の議題に進みたいと思います。次第の通りPRに関する検討を行います。まず前回お願いした専門的な立場からの提案を行いたいと思います。

PRについては市川座長代理、内田委員と一緒に提案していただきます。園路の移動については高山委員と小川原委員に各15分程度の説明を行っていただき、進めたいと思います。

この後はいろんな予定がございますのでなるべく簡潔にお願いできればと思いますのでよろしくお願いいたします。

### 【市川委員・内田委員説明】

（発言者：市川） 私、市川と内田さんの方からPRに関してご提案したいと思います。PRということで承っていたんですけども、大きく分けて三つのテーマを作成してみました。PRしていただくというところで、PRとコミュニティ作りっていうところと、あ

とイベントですね。イベントに関して、あと公園運営全体に関して少しご提案があったので、この三つの点をつけさせていただきました。内容としてはいろんな事例を中心にこんなこともアルプス公園で一緒にできたらいいなっていうものを全国からいろいろ集めてきまして皆さんに共有したいなと思っています。

早速一番のPRとコミュニティ作りの事例からお話していきたいと思います。こちら内田さんと市川でいくつか挙げさせていただいたのでこれを共有していきたいと思います。

私の方で一つ目ですね。これはWebメディアですけれども、森を中心としたテーマでいろんな場所だったりとか、その中でできることだったりとか、本当に幅広く森に関心が少しでもあるよという人が見やすいような情報発信をしているサイトです。具体的には公益社団法人の国土緑化推進機構というところが運営しているのですが、実際にこれ書いているライターさんは一般市民で、また松本でも新まつもと物語っていう観光のメディアも同じような構造で市民のライターの方が書いてらっしゃるってものがあると思うのですが、これの森バージョンっという感じですね。

なので、これは少しでも里山ですとか、森に関心のある方に情報発信する媒体としてアルプス公園でもサイトがありますけれども、こういった森に興味がある人が乗ってくれるような情報発信ができたらいかなというふうに思ってこれを紹介させていただきます。サイトのURLがあるので、後でお時間あるときに見てください。

(発言者：内田) これは特段意味がないですけど、皆さんアルプス公園ってGoogle検索だったり、普通にネット検索したりしたことあるでしょうか。次のページにしてみてください。

実際に検索をかけて画像を映し出すと、これが最初の1枚目の画像になります。これを見ていただける通り、南側の写真はたくさん出てくるのですが、北側に関する写真は出てこないですし、もちろん検索欄にも北側拡張部に関する情報っていうのはほとんど検索では引っかかってきません。そのような現状があるというところから次の提案というか、事例を紹介していきたいと思います。

北側拡張部が検索で出てこないということは、つまり知っている人は少ないというところで情報発信の問題というよりはどちらかというところ知られていない。認知度の低さだったり、利用者がやっぱり南側に比べて少なかったりということが挙げられるのかなと考えました。南側を利用するというのはファミリー層をはじめとしてもたくさんいらっしゃると思うのですが、なかなか北側まで行かない利用しないっていうこ

とがあって、そこでより活用してもらうためにどうすればいいかなというふうに考えたときに、何かPR等の発信の面で、何か引っかかるところがあるのかなと思って私が2点、大きく2点考えたのが、案内を見てもネットで検索してもどんな場所であるかっていうイメージが非常につかみにくいというところと、2点目が情報発信とか、アルプス公園とか特に北側拡張部の見せ方といったPRの薄さがあるのかなというふうに個人的には感じました。

そこで動画による発信というところで一つ事例を挙げさせていただきます。公園で、これはYouTubeで検索をかけたのですが公園動画っていうふうに検索するとこの動画が一番上に上がってきたので、今回これを取り上げました。ここの森林公園は若干アルプス公園と状況は違うのですが、施設の情報を見ていただくとかなり広かったり、アスレチックのコースがあったり四季折々を感じられるスポットがあるということで少しアルプス公園と共通点があるのかなというところで取り上げています。

この動画の特徴としては臨場感ある映像というところと、利用者目線で季節感があるっていうことで実際に自分がその場に行って、回って見ているような感覚に、動画を見ているとなれるというようなどころがあります。実際にもしよるしかったら検索をかけて見てみてください。これ2分半ぐらいの動画になっていたもので、すぐぱっと見られるかなというところなんです。

動画を活用するメリットとしては、市民への認知度アップというところ、イベントがあったときのイベントの情報の発信による集客、魅力の発信というところで実際に画像だけじゃわからないところを動画にすることでどんな場所にあるのかというところとか、好奇心でそれを見た人が行きたくなるかもしれないっていうところ。あと、チラシを作るなど、何か物を作るとお金がかかりますが、動画というのはスマホが一つあれば発信もできますし、コストがかからないというところがメリットかなというふうに考えます。

続いてホームページによる魅力発信というところなんです。先ほどと同じ動画をアップしているところのホームページをさかのぼって見たら、非常に見やすいホームページで個人的にいいなと思ったので紹介させていただきます。まず知りたい情報を入れ、すぐにアクセスできる画面ということで、これはパソコンの画面ですけど、ぱっと開くと上のところでもう利用案内施設紹介イベント花と生き物というところで、何か知りたいことがぱっとわかるのと、一番上に、よくある質問など、アクセスとかというのがわかるので、基本的に人が知りたい情報は全て見られるかなというところなんです。

あと、スマートフォンに対応しているというのはすごく大事なところかなというので、基本的に今の人は情報を調べるときにパソコンよりはスマホで検索するので、その時にパソコン画面と同じ画面が出ると非常に見づらいですけども、こちらはちゃんとスマートフォンにも対応していて、とても見やすいです。

先ほどの続きですけど、ここテーマパークみたいなのもありつつ自然を感じられる場所があってアルプス公園と似たような感じですけど、アルプス公園のおそらく比較していいのかわからないですが、北側に所属する場所がこの河川環境楽園っていうところで名前がついていて、サイトがまた別に作られていて、そこに飛ぶとイベント情報とかが一目でわかって今日何をしているのかな、明日何のイベントがあるのだろうかというのが一発でわかるような形になっていて、少しでもこの写真をぱっと見てみると自然とクリックをしたくなるようなすごい魅力ある写真が多くてそこをクリックするとイベントの情報など、こういったイベントの日時が一目でわかるというのがとても魅力的だなというふうに感じました。

ホームページを1からまた作り直すというのは非常に大変なことだと思いますので、もう少し身近なところでSNSによる発信事例を次紹介したいと思います。こちらは場所が変わって岐阜にある里山公園ですけど、これはInstagramの写真になります。Instagramというのは、SNSっていういろいろありますが、視覚的に写真によるインパクトを与えているんな魅力を発信していくというところで、画角的な魅力の発信が一番だと思います。北側拡張部は自然が豊かなのでそういった自然の写真をもう少し魅力的に撮って発信していくことで、もう少し魅力が伝わるのではないかなという感じですよ。先ほど動画のPRについてお話したんですけど、動画ってなかなか編集など、非常に難しいところがあるので写真を撮ってすぐできるっていうのがこのInstagramの魅力かなというふうに思います。

ちなみにアルプス公園も現在Instagramをやられていて、私もいつも見ているんですけど、地元民だから知っていたとこってわかる場所が多くて、いい写真が多いなってすごい嬉しく思うんですけど、一方で初めて見た人がここは一体どこのアルプス公園のどこの場所なのかっていうのがわからなかったり、何かいい写真があったりとか、発信されている中でも少しだけもったいないじゃないかなというふうに感じているところですよ。

そこに関連してハッシュタグの有効活用というところで小さくて見にくいんですけど、右側の写真の下の網水色、青っぽくなったっているところは、これハッシュタグとい

うもので、検索に引っかかるようなシステムになっていて。この文字をハッシュタグ。何々ってやると検索で引っかかるようになっていきます。ここの投稿を取り上げた理由がこれまず岐阜の清流里山公園って場所がわかると、里山公園。里山の公園だ、次に岐阜県。全て場所は書いてあって岐阜県にここがあるっていうのがわかったりとか、あと英語を入れてみたりすることで海外の人たちのヒットに当たったりとか、あと、どんな場所なのかなっていろいろ情報が、実はハッシュタグからも伝わってくるっていうので、よりハッシュタグを有効活用するのは良いのかなというところのご提案です。あと公園の今がわかるということで、このアルプス公園の Instagram のストーリーという、今を動画でぱっとあげて投稿するものをやられているのですけれど、画面に投稿した後にその投稿したっていう情報を、そういうものに載せることで、人目につくような機会も少し増えるのかなというふうに感じます。

あと、ここはこの Instagram を見ていると景色だけではなくて植物とか建物のイベント情報という、いろいろ情報が盛りだくさんですけど、普段から何かをフォローしてくれる人がその情報を拾える意味、コンテンツになるのかなというところです。

(発言者：市川) 最後、PR・コミュニティ作りの事例としてコミュニティ作りに関して一つ事例を挙げさせていただきます。これはフォレストカレッジという伊那市にあるやまとわさんという林業だったり、農業だったりっていうのを複合的にやっているところが開催している、講座だったりとか、皆さんが双方向でコミュニケーションできるサロンみたいな、オンラインサロンみたいな感じですけども、毎年受講生募集をしていて本当に森に関わる人と、普段森に興味があるけれども接点がない方っていうのが、リアルでもオンラインでも繋がったり、いろいろな情報交換ができる取り組みになっています。この写真にあるように、林業の方々ももちろんそうですけども、地域の製材所に行ったりとか、あと森に関心がある人同士でやったりとか、何かそういうライトのイベントなんかもやったりしています。

次のページもこれは YouTube だったり、Instagram だっりの情報発信の写真を少し載せていただいて、こんな感じで楽しい感じで、本当に参加したいなって思えるようなイベントをたくさんやられています。

次のページに行くと年2回、3日間連続した講座なんかもやっていて、実際に森を企てるコースとか、森を育てる森を活用するコースなんか実際に今本当に川上の方の林業だったりっていう、体験できる講座だったりとか、それを使ってどういうことができるかなというのをいろんな角度から考えるコースとか、実際に森を使ってどうす

るかってアクションまで起こせるような講座を、ライトなコミュニケーションに合わせて具体的に参加できるような講座だったり、イベントなんかもやっているの単にオンラインで繋がるという結果はそういったリアルなイベントもある。

アルプス公園でいろいろやられていると思うのですが、そこに繋げていくとより参加しやすいのかなってところで、いい事例だなと思いました。これもお時間ある時にぜひ見ていただけると嬉しいです。一つ目のPRイベントに関しては以上になります。

次二つ目のテーマでイベントの中でアルプス公園でもやったらいいじゃないかなってという事例を挙げさせていただいております。

一つ目が防災キャンプっていうのが代々木公園で結構10年ぐらい前からやられているものになります。公園の中で実際に避難場所に指定されているなど、そこでいろいろ焚き出しが行われるとか、そういった場所があるのでそれを日常の中で実際に再現してやってみるっていうイベントですね。これによって普段なかなか防災訓練とかって若い人が参加するのがハードル高いかなと思うのですが、楽しむっていう側面もこういった災害について考えるきっかけになるイベントをやっている、これもアルプス公園でできると面白いかなと思ったので挙げさせていただきました。

(発言者：内田) 先ほどのPRのときにホームページの事例として挙げたところの続きになるのですが、季節感あふれるイベントの企画というところで、一つ事例を挙げさせていただきます。ここの河川環境楽園というところにおいては、本当に一部ですけど、季節ごとにこれ冬の画像になるので冬の楽園祭だったり、キャンドルナイトであったり、クリスマスと関係のイベントがあがっているのですが、毎回季節によって春夏秋冬それぞれイベントがあると思うのですが、そこに季節1ヶ月に1回2回程度イベントを立てて季節感を大切にしたいイベントの企画がされていてすごく魅力的だなと思ってあげさせていただきました。右側の焚き火カフェというところはですね、秋頃に開催されているイベントなのですが、美味しい焼きいもとコーヒーというところで、この場所も楽園というところもアルプス公園と同じように焚き火ができる。アルプス公園だと古民家での焚き火だったりができると思うのですが、そういったところの利用者を増やすために焚き火カフェって言って、一つのイベントにしてしまっ、そこに集客をしているというところに、アルプス公園でも応用が利くのではないかなという。普段使っていなくてもイベントを比較して広く発信していくことで、何かこの写真を見たら行ってみたいなって思えると思うので、そういった

イベントの企画がされたらいいじゃないかなというので、こちら一例として挙げさせていただきます。

(発言者：市川) 最後三つのテーマになります公園運営ですけども。公園運営というプロモーションと違うかなと思われるかもしれないですけども、新しい取り組みを行っているということで、それ自体が、話題性があるなどこれからの公園でどういうあり方かなという観点でいろんなところ、結構はつきり効果があるものになるかなと思うと三つ目の公園運営というテーマで事例をご紹介しますと思います。サーキュラーエコノミーってご存知ですかね。最近カタカナと英語で恐縮ですけども、今までどっちかって上から下。物を作って、最後廃棄するっていうところが直線的なモデルだったと思うのですが、物作りとかそういうモデルだったと思うんですけども、最終的に廃棄を前提としない物作りだったりとか、ビジネス設計をしたりという取り組みが、特にヨーロッパなんかでは主流になってきていて、日本でもこの写真にあるのは乗鞍高原で行われているワークショップの写真なんですけども、それもベンチを、乗鞍高原は白樺がとんでも多いですけど、それを使って接着剤とか釘を使わずに組み立てて最終的に森の中にいっぱい置いて土に還っていく、最後朽ちて土に帰っていくっていう循環型のもの作りをしたりとかそういう循環するというモデルでいろんな物づくりだったり、サービス設計を考えていくという考え方でですけども。これを公園運営に取り入れるとより新しい、これからの時代に沿った公園の施設作りとか備品とかイベント作りとか、そういったところに役立てるかなと思って紹介させていただきました。

いろんな事例があるので、これベンチの事例ですけども、多分探したらいっぱい。海外の事例なんかだと面白いものがあるかなと思うのでこれも参考になるといいかなと思って紹介させていただきました。

(発言者：内田) 最後ですけど、こちらの国土交通省の、まず出典がありまして私が作ったわけじゃなくて、国土交通省の都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討提言の参考書の事例をとってきています。もう少し、20 近くの事例が本編には載っていますので気になる方は検索いただければと思います。まず、この事例を取り上げた神戸市港の森公園を取り上げたのは、この計画団体、公園の計画段階から完成の運営に至るまで市民が参画したというところ。その市民によって運営会議が結成されて公園の管理だったり、清掃だったり、イベント補助公園利用のルール、環境作り等を行っているというところで少しこれからの北側拡張部のあり方に通ずるかなというところで事例として挙げさせていただきました。詳しくは書いてありますのでご覧

いただければと思います。割愛します。

もう一つ江戸川区の事例ですけれど、これは区から区民に対してみんなの公園という目的の、これからこういう公園を作りたいですと、プロジェクトの説明をしっかりとしたあとで住んでいる人たちと一緒に公園でやりたいことというのを話し合っ、話し合いから区民が主体となって、公園を愛する会というのを作ったというところで、みんなで守っていく公園というところでこれから北側がこうなっていけば嬉しいなというところで事例として挙げさせていただきました。詳細割愛しますが、ご覧いただければと思います。

以上です。

(発言者：土田) ありがとうございます。それでは今ございました PR 関するご提案ですけれども、いくつか事例を出していただきましてありがとうございます。

これにつきまして3つほど内容も含んでおりますけれども、どこでも結構ですのでご質問等ございましたらお願いいたします。

(質問者：高山) いろいろありがとうございます。大変参考になりました。私一番感じているのは、まず外からアルプス公園に呼ぶというのももちろん大事ですけども、もっとその一歩前にやるのが、南側に来ていただいている方々を北側に誘導するというのは多分一番効果的で、一番簡便な誘導というか北側利用の活性化する方法はないかなと思っています。そもそもアルプス公園にこさせる、来ていただくということもすごくエネルギーかかりますので、まず南側にいる方たちをいかに北の方へ来て楽しんでいただけるかという、そういう移動の仕方というのは変えていく必要があるのかなと。

もう1点PRと運営を含めてですけれども、そのPRとか、多分お考えになっていると思いますけれども、どの辺を対象にされるのかによってやり方が非常に変わってくると思いますので、対象とする方々の階層の初見、一元さんに対するものなのか、リピーターに対する方なのか、そういったような階層分けした利用の仕方と思いますが。いつも思っているのですけれども、指定管理者のTOY BOXさんもいろいろとイベントをやっておられるのでそれを膨らませていくということでない。それから。これから新しいことをやっていく中でTOY BOXさんがやれるのがあるのかな、それができない理由ってわけじゃないですけれども、人材であったり、予算であったりいろんな制約の



中で今やれることだと思いますので、その壁を外すといいますか、何かそういう障害といいますか、壁があるのであればそれをまず抽出して、それを取っていくということをやっていかなければいけないのかなと。TOY BOX さんがやるということでは全然ないです。TOY BOX さんが一生懸命やろうとしているのだけでも、条件の制約もあって動けないってことがあるので、それを外したら外せるためには何が問題になっているのかということを検討するというのも大事と言います。

(回答者：市川) そうですね。一つ目は、確かに南側の方をいかに北側に興味を持ってもらえるかというのは一つ大きくあると思います。南側にどういう方が来ているかというのは皆さんよくご存知だと思うので、そういった方々が参加したいなって思う何かイベントだったりとか、ワークショップだったりとか、何かそういうものをもっと少しボリュームとバリエーションがあればどれかに引っかけたりとか、いろんな方に参加してくれる、やってくれる方を募ったりとかということでまだやる余地はあるかなっていうふうには感じます。

(質問者：小川原) 大変素晴らしい情報ありがとうございました。ただ今、聞きましたところ、情報の紹介、事例紹介というふうには受け止めたのです。具体的に、アルプス公園でできる事例がこの中に一つでももちろんあると思うのですが、アルプス公園ならこれができるぞというような事例を、具体的な事例を挙げるのは今後何ですか、今日ちょっとお聞きしてもいいのか、これが一つ。

アルプス公園でできるというのはこの資料にございますように、北側拡張部に関する情報がほとんど載ってないと、わずかしが載ってないというふうにはありますが、これは写真撮ったりして、スマホを利用したりして Instagram でできると思うのですが、これぐらいであとの事例がアルプス公園で即このままならできないのではないかという具体的な提案があったら少し聞いてみたいなと思いました。

以上です。

(回答者：内田) わかりました。情報発信というところで、ホームページは難しいというお話を前提にしていたのですが、SNS による情報発信というところで Instagram の活用というのは有効というか、すぐにできることというか、既に Instagram がアルプス公園にはありますので、工夫の仕方次第で応用できるのではというところで考えています。

(発言者：市川) すぐできるところはそういう情報発信の部分だなと思うのですけ

ど、何かイベントとか、公園運営に関してはもっと中長期的にこういうことができたらいいいじゃないかというところで挙げさせてもらいました。それは今後、来年度以降どうしていくかっていうのを検討していけるかなと思います。

(質問者：事務局) 少し気になるのが、先ほど高山さん言われた、どのぐらいの年齢層の方を狙われているか。なかなか50、60の方がSNSを見るかなという部分もありまして。情報発信で、これだけでいいのかなということは少しわからないので、ちょっと教えていただきたいな。お願いします。

(回答者：内田) SNSの情報発信というところでお答えすると、まずInstagramを活用している世代というのは、私は子育て世代を対象にしている、その世代に情報発信をするためにSNS、Instagramを活用するのはどうかというふうに考えました。

なので、SNSや、ホームページってお話をしていた。その対象は南側に来ているファミリー層を想定しています。

(質問者：土田) 他にございますか。これはSNSにしろ、何にしろ、誰がやるかということですけども。結局一応計画されている組織の中で指定管理者の部分の広報というか、事務局の方をお願いするってことになるわけですか。それとも市とか公園緑地課とかいろいろあると思います。

(回答者：内田) 現在運営されているのはTOY BOXさんだと思うので、そこに市役所が入るとするのは少し想定していなかったです。ただ、これから市民会議など少し幅が広がると思うので、そういう人たちと、TOY BOXさんが協働でやっていくのも良いのかなというふうに考えていました。

アカウントの管理というところが、一つのアカウントを複数人が使うというところではなかなか難しくなってくると思うので、そこはここから誰がやってほしいっていうような、こうやってしまうとなかなか難しくなるのかなと考えています。

(発言者：土田) そうですね。非常に情報の総合管理ということもありますし、市民が誰に、どう質問とか、何か案内感じたらいいかどうか。そういう情報が錯綜したりすることがあると思う。そしたら一元化を含めて生む情報発信の体制というのかな、システムをはっきりする必要があると思いますので、申しあげました。

他に何かございますか。

(発言者：鈴木) 前回緑の部分の整備のところでお話したのですが、この公園が今

はまだ未整備の段階ですよ。その段階の中で写真はこんな写真の公園ですよっていうことよりも、こんな、どんな声にしたいかっていうイメージをみんなで膨らませてもらって、一緒に整理をしながら最終的にこんな公園、こんなことができますよ、こんなことができる公園になる可能性がある。したいっていうような、そんなPRをしていったらどうかと。

例えばイベントで木を切る。木を切ってそれを利用してベンチを作ります。それから遊歩道の整備をして、チップ材をみんなで撒きましょう。そういう整備のPRイコール最終的に、それが結果的には北側もこんなふうに必要な力でできましたっていう完成のPRをあげる気がするんですけどね。だからそのイベントというTOY BOXさんと一緒にそういういろんなイベントをやりながら、イベントの案内を中心にまずやってみるといいんじゃないかなと思います。

(発言者：村上) 私も今鈴木さんの意見にちょっと近いことで思ったんですけど、説明の中で2番のイベントっていうページのところに、防災キャンプというのがありますよね。これって私がこれやろうと思えばできるかなと。例えば都市公園は自然を守るとか、保全してくというのもあるのだけれども、防災の意味では避難というか、そういう意味もありますよね。いざというときの避難地というかなんていいましたかね。災害のあったとき。

(発言者：事務局) 山田(町会)の人としてはありますけども、基本的に一時避難の場所であって、そこに集まってきたら避難場所に行くという役割はしています。

(発言者：村上) それだけですかね、すいません私はもっと広い場所なので。例えばテントを張れるとかそういうのもあるのかなと思って。ここの防災キャンプの、例えば訓練というか実施したっていうのがあればそれは老若男女、誰でも、子供たちまで参加したい人も来るしとか、それから松本市の方の防災の担当の課の方と協力できるしとかそんなふうにして。私これは思っていなかったんですけど、あと鈴木さんのようにイベントの紹介で人を呼ぶっていうのは、やっぱりそれをやっていかないと一番人が来てくれるのはそこじゃないかなと思いました。

(発言者：土田) 関連して何かございますか。またいろいろご意見をいただきまして、これはまとめてPR等についてのご提案を私の方でいただきたいと思います。

ではこの件につきましては一応終了させていただきます。

次に、園路・公園の移動の検討です。まず専門的な立場からの提案として、高山委員にお願いいたします。

#### 【高山委員説明】

(発言者：高山) お手元の資料は、今日お話する後半、終わりの方の文字のところの資料です。移動手段というそのもの自体がどういう、一体どんなものがあるかという前提条件を皆さんに写真で見ていただきながら、お話をしたいと思っています。これから見ていただく前提条件は何もないです。お金も人も誰が動かすのかとか、お金をどうするのかとか安全性はどうなのか前提条件なしで見てください。

まずこれですけれども普通の車椅子に牽引する枠を取り付けて、引っ張っていくと。山道でも行きますよというそういうやつです。それから電動アシスト自転車。皆さんご承知なので、この三輪が多分一番安定するかなと思います。それからキックボードですけれども、これ少しいろいろな問題があって今、公道でトラブルが起こっているので多分公園は難しいかなと思っています。

それからシニアカーですね。スズキでいうとセニアカーだって言いますが。こういうのもあります。ここ最近いろんな出ていまして、これ中国の例ですけれども、もう田舎のおじいちゃんがね、結構持っていたりしますが。これ安い金額で買えますけれども。それからその少しグレードが上がって電動バイクですね、このいろんなジャンルが出ています。だけど、これはちょっと公園には厳しいかなと。それからベルパークC。昔松本市市街地でも試験的に動かしたことがあったのですが、でもこれ後ろに人を乗せて、人が漕いで行くというのと、何かの電動アシストの力を使うというのがありますが、こんなものもあります。

それからですね。松本でもですね、このタイプの電動バスを開智小学校から動かしたのですよね。前、三、四年前かな。これ群馬のメーカーであります。この例はいろいろありますが、これが10人乗、7人乗り、これが2人乗り、これが1人乗りでこんなのを走らせるっていうものもあります。

それからですね。それもちょっと小型版ですけれどもこれゴルフ場で走っているカートですけれども、これ今ゴルフ場の中で路面に線を引っ張って行って、自動的に運転してくるというそういうのができます。公園の中にそれやれば、自動運転が可能になります。今これですね、山雅が今頑張っていて、こういうのを作っているのですね。

あと力車。こんなのも電動であります。最近増えてきました。

これはですね、国営アルプス公園の大町・松川で走っているロードトレインです。これ結構人気がありまして、大町・松川公園入園料が大人 450 円、子供が無料になっていると思うのですが、入園してしまったあとは、もう乗り放題です。アルプス公園は無料ですので、これに乗るときに、もしあるとしたらですね、乗車にお金を有るかどうかと、そのようなやり方ありますけども、これは国営だからできるので、広大な敷地がありますからこんなのができますけども、この最後の車両のところには車いすをのせられるようになっていまして、運転手さんと車掌さんの 2 人で運転しています。ただ、燃費がすごく悪いです。2km/L。ここにも書いてありますので見てください。

それからですね、これもいろんな遊園地のこの今のロードトレインですけども、アルプス公園もし仮にやるとしたら、大型はできませんので、このようなかわいらしいちっちゃいのならそんな頑張ることができるかなと思います。子供だったらこういうもの大好きです。ちっちゃい子供が喜びますが、後でお話しますが安全とかですねその辺がどうなるかっていうように思います。

それから絶対にできないのがモノレール。多分これはアルプス公園が無理だと思っています。それからですね、これも小鳥と小動物の森と連携という意味でやればと思っているのですが、小鳥と小動物の森に 3 頭のポニーがいて、そのポニーを貸していただいて、こういうふうにやることのできるのですが、今ちょっとポニーも若いのと高齢と、いろいろと居て、実際にできるかどうかわかりません。ただしせっかく小鳥と小動物の森がありますので、将来的にはこんなようなことをしたら面白いじゃないかなと思います。

それからですね、坂道が大変なので坂道をなくそうとすると、これも国営アルプスあづみの公園の例ですけど空中回路を、大変なところを同じように行けるのですが、結局行った先では、落差を回収しなきゃいけないので、こういう階段とかですね。国営アルプスあづみの公園の場合は建物の中に入りますので、建物の中の 2 階に入っていくと、1 階に降りる。そんな感じか途中で階段を下りるという形になっていいますが、アルプス公園ではこれちょっと厳しいかな。もしやるのだったら水辺の広場でやってやれないこともないですけど。さっき言ったみたいに最終的にはここを解消しなきゃいけないので、これも同じことですけどね。

それから今、公園見ているとこういう引っ張ってくるカートを使っている方々が結構います。今これ電動とかありますし、ちょっとこれ業務用になりますけども、こん

なような電動カートもありますので、これを例えば駐車場から自分の何かイベントのところまでの機材を運ぶとかそういうふうに使えるかもしれません。

それからこれは TOY BOX さんの話ですけど、あの中で動かす車両を電動にしていくと将来の話ですよ。こんないろんな電動の車があります。

それからお手元の資料ですけども、今お話した中でどういうふうに考えていかなきゃいけないのか簡単に整理しました。まず対象者ですけども、当然いわゆる弱者の方々。そういった子供とそれから心配な少し弱ってきたといいますか、体力に合わせたお年寄り、障害を持ったの方々の方が対象になる。それからその使う車両といいますか、移動手段ですけどもそれを自分が持ち込むのか、あるいは市とか指定管理者が貸し出すのか、あるいは別の組織が借りたり、入れたりするのか、いろんな形態がありますよね。当然考えなきゃ。ここで一番は事故とかの防止。公園自体はよちよち歩きのお子さんが安心して歩けるとというのが一番売りだと思いますので、そういった小さい子供たちも安心して園路を歩きながら、なおかつ何らかの形の移動手段があったときに安全に運行できるって、これはもう最大の前提だと思います。

それから誰が運転するのか。自分で操作するのか、他人といいますか、他の方に運転していただいたものに自分が乗るのか。そういう区別。有料にするか無料にするのか。それから全体で言うとその機器があったとしたらそれをどこにしまうのかとかです。誰がそれを動かすような体制があるのかとか、あとその費用、経費ですね。これどうするのかという問題があります。

アルプス公園自体はですね、どうするかということですけども、まずは定期的に国営アルプスあづみの公園みたいに時間を決めて定期ルートを実行するという方法と拠点から拠点。例えばこの橋の西側から森の入り口広場あるいは北の駐車場から森の里広場まで、この園路ですね。いろんなやり方があると思います。もしといいますか、もう何かやりたいなと思っているのがこの一番下の自然観察のガイド付きのツアーですね。ここから乗ってずっと行って、ここで内川さんの話を聞いて、小鳥と小動物の森を見て、なおかつ森の入り口広場まで行って、ちょっと休んで、それから山の神から自然観察の森へ行って、乗って帰ってくる。そういう自然観察会でのガイド付きのツアーなんかやったら面白いかなと思います。

先ほど言いました通り、繰り返しになりますけども、このそれぞれの番号ついてありますけどもこの間、その周遊コースであればこんなバスがいいかな、いいかなといいますか、使えるかなと思います。ただし水の広場ですね。ここは道が細く、なおか

つ急斜面があるので、ちょっとなかなかバスっていうのはちょっと厳しいかもしれないですね。ここら辺どうするかというのは課題ですけど。こんなことも考えられます。あとベロタクシーとかですね。だから小さな小型のグリーンモビリティとか、あとはこういうカート。自転車、電動アシスト自転車です。こういう山道はさっきも言いました牽引型の車椅子を使うという方法もあります。

それからですね、移動手段はやっぱり自分で漕いで行くことは体力的にもかなり厳しいことはありますんで、多分電動っていうのが一つのツールとしては有力化だと思います。その電動ですね。電池をどこから持ってくるかっていうところで、系統の要するに化石燃料が発電した電気を使うというのはあまり面白くないです。太陽光や何かで発電して、余電してそれを使いたいというようなことが基本ですけども、こちらもお金を無視します。それでご提案としてはですね、路面埋め込み型の太陽光も発電するシステムがあります。2017年の写真ですけども。フランスのマルセイユですね、高速道路1000キロに路面に太陽光パネルを敷いて、その上にコーティングするんですけども、通常の舗装路と10年とか15年のメンテナンスと同じようにできます。大型のトラックが乗っても全然問題ありません。というのを2017年に見てきたのですがすごいなと思って見てみたら、翌年中国では一気にやり始めた。日本は何をやったのかというと、あの四ツ谷駅から歩いて数分のところのセブンイレブンの前のところ、この程度。10m。これは今年社会実験やっていますけども、もうそろそろ終わると思います。上田の観光会館のところのシェアサイクルに給電するための太陽光発電ですが、ここからそこまでの長さしかやっていません。天気を、電動アシスト自転車のガシャって入れると、もうそこで自動的に充電します。それは面白いなと思います。こんなような仕組みを、アルプス公園でできればお金はちょっと今無視して言っていますけども、多分全国初の公園なると思います。

それから先ほどPRの方でもお話ありましたが、外の方にいかにアルプス公園に来ていただくかっていう中で、自分の車で来ていただくっていうのもありますけども、あの最盛期になると駐車場が満杯になってなかなか入れないっていうこういう問題があります。例えばその最盛期はシャトルバスを運行したり、あるいはオンデマンドバスだったり、あるいは相乗りにする場合は、市の政策になっています。公園という話がなくなるのですけども。市全体施策の中で公園はどうあるべきか、というところを考えていただくと、多分アルプス公園ももっと来やすいような公園になってくるのかなと思っています。

### 【小川原委員説明】

(発言者：小川原) よろしくお願ひいたします。今までの資料にもありますが、少し重複しますけども、一応案内をさせていただきます。北側拡張部の園路につきましては、非常にアップダウンが多いということ。また高齢者、乳幼児連れの家族には負担が多いと、また古民家体験教室施設への荷物のまたは道具の移動について、運搬について何か手助けはできないかと。もう一つですね。新たにTOY BOXさん、指定管理者のですね、管理だとか、安全パトロールだとか、その他いろいろ移動してきますよね。この前私視察で見に行ったときに自転車で一生懸命漕いで何か移動しておりましたが、そういったものにも私がこれから提案するものが利用できるのではないかな、こんなふうに思っております。ということでいろんなことを考えている中で二つ考えていました。

まず一般の人たちの自家用車を乗り入れたらどうか。こんなことについて自分なりに考えていましたが安全の問題、または道路幅の問題、または自然環境に与える問題だとか諸問題がたくさんありすぎましてですね、自家用車の乗り入れにつきましてはこの度は断念したということでご理解をお願いいたします。

乗用カートの導入ということも考えてみました。先ほど高山委員さんの方からの紹介の中といろいろ重複しますけれどもそれらを含めてお聞きいただきたいとかように思います。まず事前説明ですけども、乗用カートの導入、どうしてかというようなことですが、実際私もゴルフやっているものですから、あちこちのゴルフ場へ行った経緯の中でカートの利用、これいいのかなということで思い当たったのがゴルフ場ではなくて、近隣で富士見高原リゾートの中で、このカートを使って700mぐらい乗用カート。このタイプのカートを使っておりました。実際、時期が過ぎたものですから。12月5日に視察に行ってみりました。12月からオフになったものですから、駐車場にこの形がそうですね、50台ぐらいもう閉めてありましたけども、このカートのタイプは、この辺では松本カントリーとか、豊科カントリーとかこの辺近隣にたくさんあります。ということで、実際にその帰りに、このヤマハの常用カートを使っている会社も少し寄っていろいろな聞き取りをしてまいりました。それらを含めて後ほど説明しますが、12月19日には、実際このカートに乗ってみたらどうか、こんなこと思ひまして。公園緑地課から2名、TOY BOXから2名、そして委員の私が1人とい



うことで豊科カントリーの方へ実際に試乗に行っていました。カントリー側からはですね、支配人さん、また交通課の方が来て、実際コースも回りましたですね。実際に運転してみたり、取り扱いにしてみたり等々の、要するに試乗体験をさせていただいた。

こういった経緯からいよいよ資料に入ってまいりますが、実際この1ページ目にカートの必要性ってとこで、先ほど高山委員さんの方からお話がございましたが北入口から古民家まで、古民家から森の入り口まで、そして森の入り口から東入り口駐車場の辺まで、橋を渡るまでにはいきませんから、その橋渡ったところからということで3コース。または高山委員さんの方からもございましたが、南の遊園地の方までですね、コースが伸びれば動物園の方までいけるかなということも考えてみたりしたのですが、これにつきましては今後の課題としてということでございます。

次の移動につきましては、これから説明します。常用カートを利用すれば非常に安全でもあるし、お客さんもスムーズに移動ができるのではないかと、こういうふうに思っております。カートってどんなものってところありますが、これは先ほど説明させていただきました。先ほど試乗さしていただいたということを含めまして、一番ここに、荷台運搬というものはこのカートの後ろにセットできるようになっています。このカートの後ろにゴルフバックが四つあるのですが、一つ20キロから30キロあるとしても、かなりの重量が運搬できる、またはこういう他の器具っていうのですかね、そういうものもあります。またこの後ろに車椅子をつけるものもあります。それから先ほどの高山さんの紹介にもありましたが、車椅子みたいなど移動するなんと言うのかな、そういうものもこの後ろにセットできるように、いろいろな器具はついたものもうカタログを見ましたところありました。カートの中の運転方式、ゴールドカートを検討したということですが、自在に走行できるマニュアル式と快適に自動走行できる。電磁誘導式というものがあります。それからマニュアル式というものは実際自分たちで車を運転するようなものでアクセルとブレーキがついておりまして、普通に運転できる。実際運転してみても軽快に乗ったというふうに思っております。それから電磁誘導式というものは実際指定された、固定っていうのですかね、コースを決めてそこに誘導線を埋め込んで、その誘導線から磁気で、カートと反応して自走できるというものです。ですので、利用する方はオンオフのみバックなんかもできるのですがそれについてはまた別の話といたしまして前進のみでいきますと、ボタンを押せば動き出します。カーブがあつたり、危険箇所があつたりすると自動的に速度が落ちま

す。又はもう走行のみでいいというときには、後ほど紹介をしますが、スピードはある程度のスピードを確保できるとこういうものが電磁流動方式ということでございます。それから駆動方式っていうのは、ガソリンがとか電池とかリチウム電池ですが、公園の中ですのでガソリンはさておきまして、鉛蓄電池というものが現在一番普及しているものですが、どんどん更新していく中で特にカントリーさんなんかでは更新していく中で、リチウムイオン電池というものを使っております。走攻守マニュアル式ですね、このようなところは自動運転によりコストは低いということで、誘導電池式はですね。実際電線を埋めたりするには、大体1メートル当たり2000円ぐらいかかるということで、最初の設備投資。設備が、お金がかかるのではないかとことを考えられます。運転する場所は限られないということですので、安全面、歩行者等々を考慮しながら舗装道路での、芝の上でも自由に運転ができるようになっております。

それから悪いところっていうのは、カートの安全管理や難しいということで、日頃、車を運転していても同じことだと、ほとんど同じことだと思いますが、安全面で少し無理があるのかなとそんなふうに思います。先ほど、後ほどということになっていましたが、電磁誘導式ですが、非常に安全性は実際ゴルフ場で使っていますが、私が見ても安全性は非常に高いものだということは、思いますので、電磁誘導式です。コースを外れることもございませぬし、また運転はボタンを押すだけです。またリモコンというのは資料には80mぐらいと書いてありますが、障害物がなければ100m、200mでもその電波が届くというような説明もございました。悪いところといたしましては限られた場所しか行けないということで、これもスイッチ一つで自走式にもできるわけですが、一応電磁誘導式というカートはコストもかかるというようなことで資料の通りでございます。

先ほど、後ほどということでお話しましたがガソリンはさておきまして、鉛蓄電池につきましては環境に優しいとはいうものの、一晩の充電で10kmぐらいしか走れないということも含めまして、今、リチウム電池どんどん方針の中では移って、更新がそうっておりますということで、リチウム電池に移行した場合には、鉛蓄電池のカートが今どんどんあちこちのカントリーでハイピッチしていますのでコストっていうか、もし購入する場合には安く手に入るのかなというようなことも考えました。このリチウムイオン電池、中古は増えているとこんなところですね。ということでリチウムイオン電池将来はこういう形になるのではないかと。常に全国、市外でもこういっ

たもの、カートが利用されているという情報もあります。

他に安全性を考えると、対人センサー、カートは進行するときに人がいたりすればセンサーが働いて、安全対策が、要するに止まってしまうということですね。それから列をなしたとき、追突防止なんかの設備もついております。それは機能をつけるということは経費もかかるわけですが、次は道路幅ですね。3.8m あれば2台の往復ができるということです。先ほども話しましたが、北の入り口から森の里広場まではですね。道路幅が2.6mでしたよね。どっかに書いてあります。舗装幅が2.5mということでしたので少し往復は難しいかな。一方通行とのことでその辺の、今後を利用していくためには検討しなきゃならないことがあると。舗装幅が2.5mですので一方通行しかできないというようなことを考えられます。ということで実際に試乗体験をしていただいた方のお言葉を聞くのもいいと思いますが、その辺につきましては事務局におまかせするといたしまして、私の方からの説明は以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

(質問者：土田) ご苦労さまでした。いろいろ教えていただきましてありがとうございました。2名の方の公園内の移動手段として、乗り物といいますが、あるいは自力で引っ張っているようなものもありますけども、そういう運搬手段。今日のご提案いろいろございました。たくさんの事例もございますし、具体的なご紹介もありました。何かご質問等ございましたらお願いいたします。

今の小川原さんのご提案のカートは1台いくぐらいとかっていうのは何か。

(回答者：小川原) 業者から聞いたところによると200万円くらいですね。そのオプションつけば先ほどの20万円のやつです。おおよその値段です。

今の鉛蓄電池の方と、リチウムと値段が違う。リチウムの方は値が上がると、こういうことでございます。

(発言者：土田) そうですか。ありがとうございます。

これらの導入につきまして、予算の問題もありますし、道幅とか問題ありますし、ルートの問題、また誰が管理するかという問題と、含めていろいろ問題があると思うのですがこういうような形で、公園内を移動、いろいろな方に利用していただくという便利を図るといふ。利便性を図るといふことについての是非については、まだ必ずしも議論は進んでいないと思います。そういう点について何かご意見ございますか。

こういう移動手段をぜひ活用してほしいという。ある場合、便利でいいじゃないかというようなそういうご意見。

(発言者：小川原) 先ほど申しあげましたが、実際これを導入していくってことになりますと、今座長の方もお話がありましたように、非常に経費がかかるものだと、このように思っておりますので、今後の課題だというふうに思っております。とりあえず私の思うのはTOY BOXさんが管理パトロールだとか、その他連絡移動手段として、このカードを1台でも、せこなんて失礼ですけども、中古の安いのも入れてですね。実際、中で運行してみると、そうすると来たお客さんなんかいろいろな声が出てるのかなということも少し考えていました。せっかく考えたものですから発表させていただきましたがよろしくお願いたします。

(発言者：土田) そういうような思考的なことやってみたらどうかというご提案がございました。

(発言者：高山) 私も小川原さんの意見全く賛成で、今TOY BOXさんが巡回を軽トラック、ボックス型の軽トラ使ってらっしゃるみたいですけども。あれはガソリンですよ。将来更新するときに多分電気自動車みたいになるのかなと思ったんですけども、もちろん可能であれば電気自動車に変えていただいて、巡回とそのお客さんに乗せるっていうのはイコールになるかどうかわかりませんが、すぐできるかどうかわかりませんが、使いやすいような巡回車も合わせて、お客さんに乗せて公園が移動できようオンデマンド式のです。設置するとかですね、やったらどうかと思います。

多分、土日は結構それなりに訪問される方多いのでいいですけども、平日とかは多分そんなにお客さん来ないので利用率がかなり下がると思いますから、多分投資額に対して効率が非常に悪いと思います。年間を通してならずとその辺をどう考えるとかか予算の問題もいろいろありますんで。要は特別なことをやるのではなくて、何か今やっていることの中で、少し変えることで本当にいいことができるということがあれば、それをまずやってみるっていうのがいいのではないかとということで小川原さんの意見にも賛成です。

(発言者：土田) 思考をあるいは巡回車両等を活用してみたらどうかということでございます。それらをもとに将来実現時、実際に使用するかどうかを考えてというようなご提案だと思いますが

(発言者：小川原) 先ほども発言させていただきましたが、試乗に行かれたTOY BOXさんの方から試乗をしてみてどんな感想なのかちょっとお聞きしたいと思います。お願いします。

(発言者：TOY BOX 渡邊) 試乗した段階ですと乗りやすかった。運転しやすかったってところあったので、公園北側、今のまんまの状態で考えた場合は北側というより南側回る分、あと平日とかだったら乗りやすいかなというのは正直思いました。そうですね。ここから先ってというのはまだ全然わからないですけども。広い場所とスタッフが運転する分には安全面は大丈夫かなというふうな感想です。

(発言者：博物館 内川) 園内の移動ということで実際の需要のほうでお話させていただくと、博物館自体は車いすもあってですね、入り口のところにスロープもあつたりするのですが、そもそもやはりあの駐車場自体から遠いというようなご意見自体は何か出ているっていうのが実情であります。場合によっては団体で来たときに、確か今年の夏ぐらいだったと思うのですが、少し歩くのが大変な方たちがいるってことで車の許可申請があれば入れるかどうかみたいな問い合わせとかもあつたかなという記憶していますので、需要としてはですねありますし、ぜひとも周遊みたいところでコースを作るのであれば山と自然博物館前にも来ていただけると、非常に助かるかなと思います。

ただ周遊とあると個人的な意見ですけど、他のカートとかだと人数少なめなのかなというふうに思わくないけれども。あと、またですね夏に問い合わせあつたところはそのまま結局中に乗り入れる許可を取ればできるみたいな話もあつたのですが、そうなりとやっぱり南駐車場からのアクセスを考えると第2、第3駐車場は、少し園内と外との間も移動できたら便利じゃないかなというふうに思いました。

(発言者：土田) いろんなところで活用できるじゃないかとございました。他にご意見ございますか。特に反対とかそういうご意見はなかったようですが事実上、いろんな面で今すぐというわけじゃないので近い将来、実現化する方向で考えていくという形で皆様のご了解を得たいと思いますけどよろしいですか。

そういうことでお願いいたします。